

横浜災害ボランティアネットワーク会議 令和7年度 事業計画（案）

（横浜災害ボランティアネットワーク会議基本方針）

- ・横浜市18区、災害ボランティアセンター開設訓練に積極的支援参加協力
- ・「横浜市災害ボランティア支援センター」への協力体制と情報共有の促進
- ・会員間の情報共有の手段の多様化を促進する「顔の見える関係づくりを重視」
- ・4ブロック会議・市域団体ブロック会議の定例化、ブロック間の交流促進
- ・災害ボランティア支援マニュアルの習得、研修会の開催 被災地支援のボラバス参加
- ・行政はじめ各機関との連携強化 地域防災組織との連携（横浜市主催の防災訓練参加）
- ・周年行事・災害関連啓発日、区のイベント等に参加、横浜災害ボランティアネットワーク会議の活動理解と周知及び参加の呼びかけ

1. ホームページの自主運用開始と情報の集まる「窓口」づくり

今年度から、YSVN 会議としてホームページの自主運用をスタートしました。このホームページは、各区の活動の紹介や、防災に関する情報、災害時の対応などをわかりやすくまとめた「みんなのための情報の窓口」として育てていきます。

2. 各区との連携をさらに深め、企画・提案を形にします

それぞれの区が持っている特色や知恵を活かして、学習会や訓練などを一緒に企画・開催していきます。また、区から出されたアイデアや提案を、YSVN 会議としてもしっかりと受けとめ、実現に向けてお手伝いします。

3. 地域とのつながりを活かした活動の広がり

防災は特別な人だけが行うものではなく、地域の中で暮らす私たち一人ひとりに関わる大切なことです。夏祭りや地域のイベントなど、ふだんの暮らしの中にも防災の視点を取り入れ、「防災って、思ったより身近なことなんだ」と感じてもらえるような活動を増やしていきます。

4. 女性や若い世代も参加しやすい環境づくり

これからの時代、若い人たちや女性の視点・力がますます必要です。「ちょっと手伝ってみようかな」「話だけ聞いてみたい」そんな気軽な参加から始められるよう、学校や地域団体と連携しながら、皆さんが自然に関われる環境をつくっていきます。

5. 他のボランティア団体との助け合い・協力体制づくり

いざという時、地域だけでなく、市内外・全国の仲間とのつながりも大切です。普段から交流や情報交換をしておくことで、災害時にスムーズに助け合える関係を築いていきます。

6. ICT（情報通信）を活かして、どこからでも参加しやすく

Zoom などのオンライン会議や研修を活用し、参加しやすい環境を整えていきます。パソコンやスマホが苦手な方でも安心して学べるよう、操作のサポートや丁寧な説明も工夫していきます。

7. 学びの機会を充実させ、知識と技術を身につける

いざという時に備え、災害対応に必要な知識や技術を学べる研修会や講座を計画しています。ほかの団体と協力したり、外部の講師を招いたりして、内容をよりわかりやすく、実践的なものにしていきます。